

# 江戸時代の時刻表示と現在の時刻換算図

時刻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
冬至 旧暦11月中 新暦12/22	九ツ半	夜八ツ	八ツ半	暁七ツ	七ツ半	明六ツ	六ツ半	朝五ツ	五ツ半	朝四ツ	四ツ半	昼九ツ	九ツ半	昼八ツ	八ツ半	夕七ツ	七ツ半	暮六ツ	六ツ半	宵五ツ	五ツ半	夜四ツ	四ツ半	夜九ツ	
		丑		寅		卯		辰		巳		午		未		申		酉		戌		亥		子	
春分 旧暦2月中 新暦3/21	九ツ	夜八ツ	八ツ半	暁七ツ	七ツ半	明六ツ	六ツ半	朝五ツ	五ツ半	朝四ツ	四ツ半	昼九ツ	九ツ半	昼八ツ	八ツ半	夕七ツ	七ツ半	暮六ツ	六ツ半	宵五ツ	五ツ半	夜四ツ	四ツ半	夜九ツ	
		丑		寅		卯		辰		巳		午		未		申		酉		戌		亥		子	
夏至 旧暦8月中 新暦6/21	夜八	八ツ	暁	七ツ	明六ツ	六ツ半	朝五ツ	五ツ半	朝四ツ	四ツ半	昼九ツ	九ツ半	昼八ツ	八ツ半	夕七ツ	七ツ半	暮六	六ツ	宵五ツ	五ツ	夜四	四	夜九	九ツ	
		丑		寅		卯		辰		巳		午		未		申		酉		戌		亥		子	
秋分 旧暦8月中 新暦9/23		夜八ツ	八ツ半	暁七ツ	七ツ半	明六ツ	六ツ半	朝五ツ	五ツ半	朝四ツ	四ツ半	昼九ツ	九ツ半	昼八ツ	八ツ半	夕七ツ	七ツ半	暮六ツ	六ツ半	宵五ツ	五ツ半	夜四	四ツ半	夜九ツ	九ツ
		丑		寅		卯		辰		巳		午		未		申		酉		戌		亥		子	

各季節のそれぞれの時間帯の時間

季節	明六ツ	暮六ツ	昼間帯	夜間帯	昼間帯一刻	夜間帯一刻
冬至	6時11分	17時08分	10時間57分	13時間26分	1時間43分	2時間17分
秋分	5時09分	18時29分	13時間20分	10時間40分	2時間13分	1時間4分
夏至	3時49分	19時36分	15時間47分	8時間13分	2時間38分	1時間22分
秋分	4時54分	18時13分	13時間29分	10時間31分	2時間15分	1時間45分

◇資料 江戸時代の時刻制度 [http://ww6.enjoy.ne.jp/~kisk/LocalStudy\\_Dat/Time.htm](http://ww6.enjoy.ne.jp/~kisk/LocalStudy_Dat/Time.htm)  
 和時計の暮らし <http://www.ammo.jp/monthly/0211>  
 などによる。

- ◇ 江戸時代の時刻制度は、日の出と日没を基準とする「不定時法」が使われていた。  
 日の出およそ30分前後を明け六ツ、日没およそ30分後を暮れ六ツとし、その間を昼夜それぞれ六等分して、一刻（いっとき）とした。
- ◇ 24時間を12分割したのが、1刻なので、定時法だと2時間である。  
 しかし、不定時法では、季節によって一刻の時間も変化する。  
 ちなみに、春分と秋分では、昼と夜の長さが同じなので、定時法の2時間に近い。  
 春分は昼間帯が2時間13分、夜間帯が1時間47分。（それでも昼が26分長い）  
 秋分は昼間帯が2時間38分、夜間帯が1時間22分。（昼が30分長い）  
 春分と秋分は昼夜の時間が同じなので、本来なら、昼も夜も同じ時間のはずだが、昼の時間が長いには理由がある。  
 江戸時代の時間区分は、昼間は働く時間、夜は休む時間となっていた。  
 現在では、電気照明があるので、夜も働くことができるが、乏しい照明しかなかった江戸時代では、夜は活発には働けなかった。  
 しかし、少しでも明るいうちは、働くために、昼の時間を長くしたのであろう。  
 （ただし、これは推測である）  
 夏至は、昼間帯が2時間38分、夜間帯が1時間22分と、昼間帯が1時間16分も長い。  
 冬至は、昼間帯が1時間43分、夜間帯が2時間17分と、夜間帯が34分長いだけである。  
 これも、働ける時間を長くとうろうという、先の推測に合っている。